

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年7月2日（木）

2 確認箇所

使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（図1）

3 確認項目

使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況

4 確認結果の概要

東京電力では、各原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している使用済燃料の安定管理を図るため、共用プールで集中管理することとしており、各原子炉建屋の使用済燃料プールから共用プールへの移送を進めている。

共用プールの保管容量確保に向け、十分に冷却が進んだ使用済燃料を乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体収納可能）に装填し、構内の使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（以下「仮保管設備」という。）に移送する計画である。しかし、既存の仮保管設備では、想定する保管容量を満たさないため、令和5年2月に保管容量を30基分増設する工事が開始され、本年度上期での完成を見込んでいたが、当該設備の設置工事の完成は来年度になる予定である。

なお、既存の仮保管設備の保管容量は、上限（65基）に達していることから、増設工事により受入箇所ができ次第、増設キャスクの使用を開始することとしており、その運用開始は、令和8年10月頃を見込んでいる。使用済燃料の保管容量をより多く確保するため、増設箇所に設置するキャスクは、大型のもの（以下「兼用キャスク※¹」という。）が選定された。

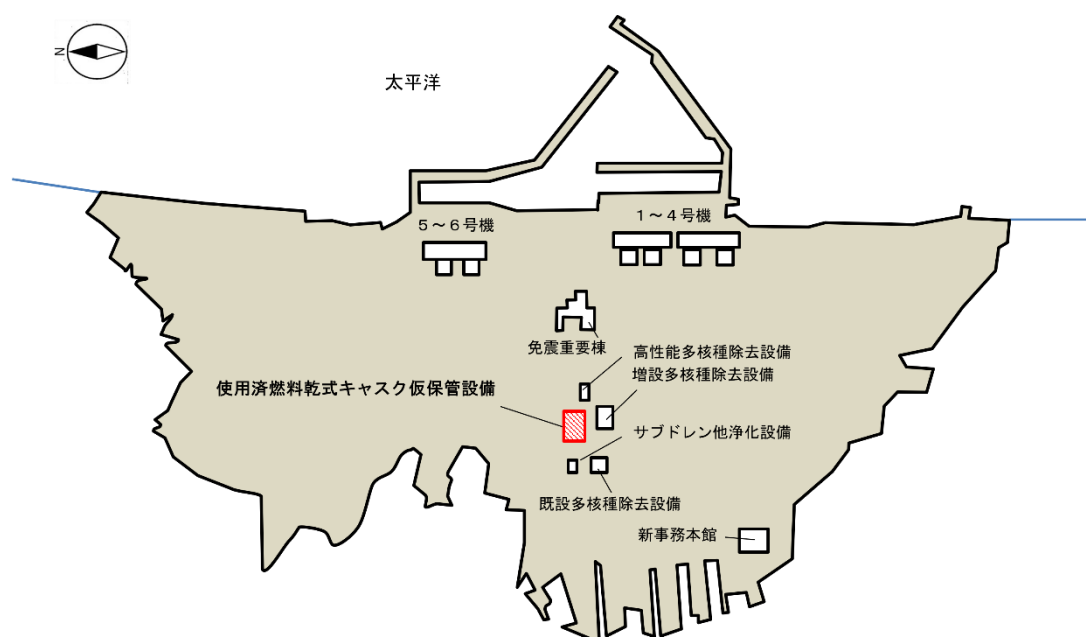
今回は、仮保管設備の増設に係る工事の進捗状況等を確認した。（前回確認：令和8年4月21日）

- ・増設箇所の東側ではL字擁壁を整備していたが、当該擁壁設置が完了し、既設の仮保管設備と底面の高さを統一するための盛り土と土留めの施工も終了しており、キャスク増設部のコンクリート支持架台と同じ高さでのアスファルト表土打設も完了していた。（写真1）
- ・また、これと併せて拡張基礎には、周辺防護区域用フェンスの設置工事が進められていた。
- ・兼用キャスクの移動に用いる門型クレーンの延長整備もほぼ終了し、増設箇所東側（海側東端）にはクレーンの走行ストッパも敷設されていた。しかし、既存基礎部分と拡張基礎部分の境界に敷設されている防護フェンスの撤去が完了していないため、クレーン走行用レールに施す被雷設備の施工は未完となっていた。（写真2）
- ・拡張基礎部分及び既設基礎上に増設を進めていた兼用キャスクの設置工事は、いずれもコンクリート支持架台の設置が完了し、架台周辺部には、兼用キャス

クを覆うコンクリートモジュールを設置するためのアンカーボルトの整備も完了していた。（写真3）

- ・現場では、確認した範囲において、整備した拡張基礎部分におけるひび割れや盛り土の崩れ等、異常は見られなかった。また、既存基礎部分との接合、及び既存基礎部分に増設された兼用キャスクの支持架台についても異常は見られなかった。

※1 兼用キャスク：輸送貯蔵兼用であり、1基当たり使用済燃料が69体収納できる大型のキャスク。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1-1）

増設エリア南西側の状況①

※ 盛土・土留め工事が完了し、
表土面は、アスファルト敷設済と
なっている。



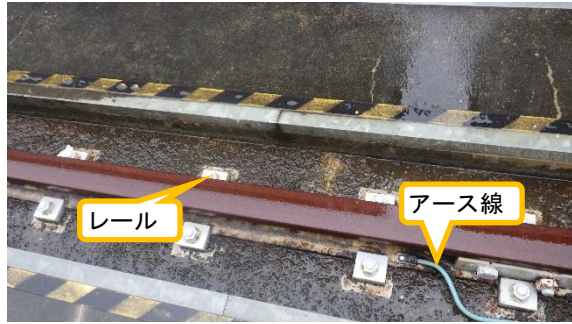
（写真1-2）

増設エリア南西側の状況②

※ エリア外側から撮影
L字擁壁の内側に防護フェンスの
設置工事が開始されている。



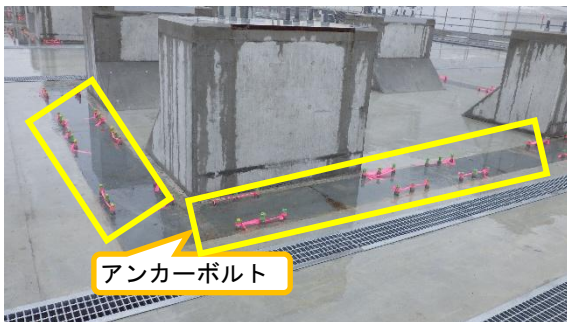
(写真 2 - 1)
クレーンのレール溝の設置状況
(令和 8 年 3 月 1 6 日の例)



(写真 2 - 2)
クレーンのレール設置状況 (令和 8 年
7 月 2 日の例：地絡用配線は未完)



(写真 3 - 1)
キャスクを設置する架台の整備状況



(写真 3 - 2)
アンカーボルトの整備状況



(写真 3 - 3)
既設の仮保管設備エリアに整備され
た架台の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。